

---

# 蒼紅

桃樹愛菜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

蒼紅

### 【Nコード】

N1298BA

### 【作者名】

桃樹愛菜

### 【あらすじ】

戦国BASARAの『もしも…』がいつぱいです。夢で見たものを、更に妄想を加えて物語にしました。夢70%、妄想30%で出来ています。

伊達政宗、真田幸村。

皆はこの2人を蒼紅と呼ぶ。

いつの頃からか好敵手となったこの2人は、顔を合わせると手合わせ、戦わずにはいられない。その感情を抑える事が出来なくなっていた。お互いのどちらが強いのか、ただそれだけの為に命を懸ける。それが今日、決着がつこうとしていた。すなわち、どちらかの死…。

『HELL DRAGON!!!!!!!!!!』

勝敗は伊達政宗に傾いていた。

『大将っ!!』

佐助の声も虚しく、真田幸村にトドメの一撃が入ろうとした刹那

『!?!』

伊達政宗の雷を纏った蒼い六爪流が真田幸村の寸でのところで止まった。伊達政宗が何かに気付き自ら手を止めたのだ。

その期を佐助は見逃さず、真田幸村に駆け寄る。そしてひょいっと軽々と真田幸村を抱き上げ、伊達政宗との距離をあけたのだった。

『佐助っ！！何をする！！手を出すなとあれほどっ！！』

最後まで言うのを待たずに佐助は伊達政宗に言い放つ。

『独眼竜、今日はこの辺にしといてくんない？』

佐助のその言葉に

『なっ！！？』

真田幸村は不服とばかりに抱き上げられた身体をジタバタ抜け出そうとする。

『…』

伊達政宗は佐助の申し出を無言で受け、舌打ちをした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1298ba/>

---

蒼紅

2012年1月3日04時55分発行